淡路夢舞台の創造的再生に向けたあり方検討報告書

令和7年12月　兵庫県

1　はじめに

90年代後半、関西国際空港開港や明石海峡大橋の開通などを背景に、大阪湾ベイエリアは「世界都市関西」形成のフロンティアとしての再生が大きく期待されていました。そのような中、淡路夢舞台は、広大な土砂採取跡地に緑の自然を復元し、人と自然と文化が交流するコミュニケーション都市をめざす「淡路島国際公園都市」の中核施設として整備されました。また、阪神・淡路大震災で失われた命への鎮魂や、自然環境の再生をテーマとした、震災からの創造的復興を象徴するプロジェクトでもあります。

2000年のオープン以来、淡路夢舞台は多くの方に親しまれ、長年にわたり地域の振興・活性化に大きく貢献してきました。その一方で、大きな時代の変化の中で、今後の持続的運営や、戦略的投資等、施設の維持管理・運営のあり方についての議論が求められてきました。

おりしも、大阪湾ベイエリアは新たな展開を迎えようとしています。先日閉幕した大阪・関西万博を契機に、神戸空港への国際便の就航、大阪ＩＲの開業など、エリアへの注目度が高まっています。これらを好機に、国内外の人・モノ・投資の流れを淡路、そして兵庫へと呼び込み、地域の活性化に繋ぐことが重要です。

県は令和７年３月、県議会でのご審議などを経て、「県政改革の基本方針」として、「大阪湾ベイエリアの新たな展開を見据え、地域の活性化を牽引する拠点として淡路夢舞台を創造的に再生する」こととしました。「ホテル等の資産の維持管理・運営に民間活力を導入するとともに、公の施設群についても既存の利用形態にとらわれず今後のあり方を検討する」方針です。

その後、民間事業者へのサウンディング型市場調査や、地元関係者等のご意見なども踏まえつつ、淡路夢舞台の新たなあり方についてさらに具体的な検討を進め、このたび、その最終報告として「創造的再生の基本方針」をとりまとめました。

「創造的再生（ﾘｼﾞｪﾈﾗﾃｨﾌﾞ）」とは、「持続可能性（ｻｽﾃｲﾅﾌﾞﾙ）」をさらに前に進める言葉であり、「現状を維持していくための改善」ではなく、「課題を根本的に見直し、従来のスキームにとらわれずにより良い形を生み出し、将来へとつなぐ」ことを意味しています。すなわち、県がお示しするこの方針は、県が、県民、夢舞台に関わる地元関係者の皆様、そして民間事業者の皆様に共有していただきたい「淡路夢舞台の将来ビジョン」であるとともに、次の世代に向けて託すメッセージでもあります。

今後、この方針のもとに、官民が力を合わせ、未来を見据えた価値創造に挑戦することで、淡路島、そして兵庫の新たな可能性を切り拓いてまいります。

令和7年12月

2　検討の視点

淡路夢舞台の今後のあり方の検討にあたっては、以下の３つの視点に留意しました。

１　将来を見据えた『価値の継承』と『新たな創造』を通じた持続的な再生

淡路夢舞台の開発理念を踏まえ、守り引き継ぐべき価値を評価、再定義するとともに、地域が抱える課題を踏まえ、時代の変化に応じた新たな価値を創造することによって、将来を見据えた持続的な再生を目指します。

２　淡路地域の活性化の核としての『拠点性・公共性』の確保

淡路夢舞台がこれまでに果たしてきた公共的役割を再構築し、地域活性化の拠点としての機能を強化します。

３　官民協働による『持続可能な運営モデル』の構築

公共性を担保しつつ、民間の創造力と実行力を生かした柔軟かつ効率的な運営を確保するため、以下に留意しながら官民連携による「持続可能な運営モデル」を構築します。

- 財政負担の軽減と公的資産の有効活用
- 公共性のある民間投資を促進し、施設群の維持と魅力向上を可能にする持続的な投資枠組みの構築
- 「民間投資の促進」と「夢舞台の一体性・公共性の維持」を両立させる制度設計

3 検討の経緯

令和 5 ～ 7 年度にかけて淡路夢舞台の再生方向を協議。兵庫県議会での審議や市場調査、有識者や地元関係者等による検討会などを重ね、R7 年度に「創造的再生の基本方針」を策定しました。

年度	方針等の協議過程		関連する市場調査や検討会
R5年度	R６年 ２月	■ 企業庁経営評価委員会『**地域整備事業のあり方検討についての報告書**』提出 「地域整備事業会計の存廃も含めた抜本的見直し」及び「個別の事業の展開方策の検討」を提言	
	R６年 ２月～	■ 県議会、県政改革調査特別委員会において　県政改革に関する審議開始	
R6年度	R６年 12月	■ 県政改革調査特別委員会へ**「改革案」**を提出 ・ 淡路夢舞台の創造的再生に向け、ホテル等企業庁保有資産の維持管理・運営に民間活力を導入し、「資産譲渡」又は「運営権設定」を基本に検討 ・ 公の施設群についても、既存の利用形態にとらわれずあり方を検討する旨を提示	● 淡路夢舞台における地域貢献のあり方勉強会（R6.11～R6.12） ● 淡路夢舞台の新たな展開方策等の検討に向けたサウンディング型市場調査（R7.1～R7.4）
	R７年 ３月	■ **県議会での議決を経て 『県政改革の基本方針**』として策定	
R7年度	R７年 9月	■ 淡路夢舞台の創造的再生に向けたあり方検討中間報告**「淡路夢舞台の創造的再生に向けた基本的な考え方（案）」**公表 ・ 淡路夢舞台の創造的再生に向けた、「新たなデザイン・コンセプト作成の考え方」及び「淡路夢舞台各施設に係る運営方針（案）」を公表 【ホテル・テラス】 土地・建物一体での民間譲渡 【国際会議場】 公の施設としての役割に区切りをつけ、民間事業者への譲渡を基本に、資産も有効活用を図る 【上記以外の公の資産】 指定管理を継続	● 淡路夢舞台の創造的再生に向けた検討会（R7.6～R7.12）
	R７年 12月	■ 淡路夢舞台の創造的再生に向けたあり方検討最終報告**「淡路夢舞台　創造的再生の基本方針」**公表	

4　検討体制

淡路夢舞台の創造的再生に向けた検討会　（R7年6月～12月）

● 外部有識者

◎ 座長

分　野	氏　名	役職名
公園緑地	◎ 赤澤　宏樹	兵庫県立大学教授
ＰＰＰ／ＰＦＩ	上村　敏之	関西学院大学教授
企業財務	辰巳　八栄子	辰巳公認会計士事務所公認会計士
建　築	橋爪　紳也	大阪公立大学特別教授
観　光	古田　菜穂子	ひょうご観光本部ツーリズムプロデューサー
関係施設	三井　雄一郎	国営明石海峡公園事務所長
地元市町	植松　浩二	淡路市副市長

● オブザーバー（庁内関係者）

職　名	分　野
企画部	ベイエリア活性化
観光局	観光戦略・資源
淡路県民局	地域創生

● 事務局

部局名	所管施設
企業庁	ホテル等
産業労働部	国際会議場
まちづくり部	百段苑、温室、灘山緑地等
土木部	淡路交流の翼港

淡路夢舞台からはじまる
新しい価値創造

AWAJI FUTURE STAGE

HYOGO Prefecture × Partnership Project

淡路夢舞台 創造的再生の基本方針

INDEX

INTRODUCTION
3 はじめに

BACKGROUND STORY
4 Part1 再生の背景
①時代潮流
②淡路島のエリアバリュー
③淡路夢舞台に込められた思いと、現代につなぐ価値

PROJECT OUTLINE
14 Part2 淡路夢舞台の未来ビジョン
人と自然が響き合う、新たな交流と創造の舞台へ
「つなぐ・つどう・つくる」

TERRITORY VALUE & PARTNERSHIP FRAMEWORK
19 Part3 共創の枠組み
①淡路夢舞台の価値［ポテンシャルと可能性］
②今後の施設運営方針
③譲渡対象となる主要施設
④委託対象となる主要施設
⑤県と事業者の役割分担
⑥今後のスケジュール

IDEAL STATE
33 おわりに
新たな施設所有者に求めること ——

CONTACT
34 相談・問合せ窓口

INTRODUCTION

はじめに

「21 世紀はもはや、放っておけば自然が環境を整えてくれる時代ではなく、一人ひとりが強い意志をもって、積極的に自然に働きかけながら、環境と共生していかなければならない時代」
「庭の木々や小川、六甲山や大阪湾といった身近な自然から、地震などの天災も含めた地球規模の長期変動に至るまで、私たちが生きている“ 環境 ”に対する意識を少しでも高めるきっかけになればと考えています」
安藤忠雄氏は、淡路夢舞台を設計する際にこのように語っています。

人と自然のコミュニケーションをテーマに掲げ、約 700 万人の来場者でにぎわった「国際園芸・造園博ジャパンフローラ 2000（淡路花博）」。その開幕にあわせ、私たち兵庫県は「失われた自然の再生」と「人と自然の共生」を理念に、淡路夢舞台を誕生させました。以来、この交流の舞台は、多彩な活動を育み、地域の活性化を牽引してきました。一方、時代の変化の中で、その価値を次の世代へとつなぐためには、かつての役割を守るだけではなく、新しい視点と創造的な実践が必要とされています。
そこで私たちは、行政が担ってきた公共性や安全性の確保、資産の維持に、民間事業者が持つ柔軟な発想力、創意工夫、そして運営のノウハウを取り込みながら、“ ともに、淡路夢舞台を再生させる ”という大きな決断をしました。

淡路島が長い時間をかけて育んできた自然・歴史・文化・食・暮らしという揺るぎない価値を礎に、
淡路夢舞台を「新しい体験が生まれ、世界へ発信される場所」へと進化させていく。
これは単なる施設運営の見直しではなく、淡路島の未来、そして地域の誇りを次世代へつなぐための官民共創の新しいステージへの挑戦です。
これから私たちは、同じ方向を向くパートナーとともに、淡路夢舞台の可能性を最大限にひらき、“ 次の 30 年 ”を形づくる再生プロジェクトに本気で取り組みます。

淡路夢舞台を、未来を担う世代にも誇れる場所へ。
そのための官民共創による歩みを、ここから始めます。

Part 1

BACKGROUND STORY
再生の背景

HISTORICAL BACKGROUND

①時代潮流

関西圏の次なるフェーズや社会の潮流の中で、淡路島は、“ 暮らしの本質 ” を思い出し、“ 日本の原風景 ” を感じさせる滞在先として国内外で高い注目を集めています。

■変化する価値観

世界と日本の潮流は、淡路夢舞台が掲げてきた理念に追いつきつつあります。1990 年代にはじまったプロジェクトは、
今、── 未来を指し示すフィールドへと歩みを進めています。

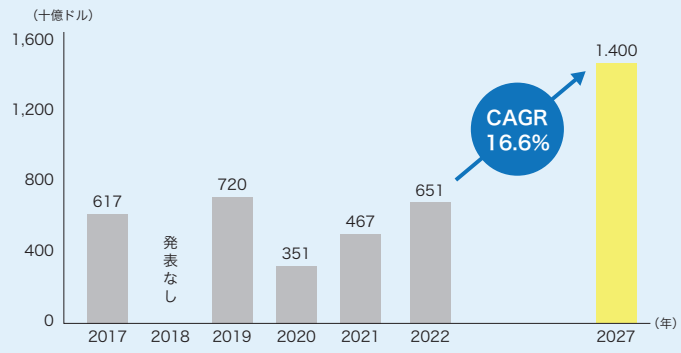
観光の価値は、量から質へ。体験・滞在を重視する時代へ

近年のインバウンド市場は、観光目的が「消費」から「共感」へ、旅行者は “ そこでしか得られない体験 ” を求めるようになりました。その土地ならではの本物の体験を重視する “ 体験価値志向 ” と同時に、こうした体験をより深く味わうためのラグジュアリー施設やプライベートステイの需要も拡大しています。

ウェルネス・ツーリズム市場の需要創出／
地域に広がる人材・企業の循環と共創の潮流

ウェルネスツーリズム市場はパンデミックの打撃を経て再び拡大しています。健康・ストレス軽減・病気予防への需要が高まり、2027 年まで年平均 17% の成長が見込まれています。支出の多くは先進国の旅行者が占めます。また、人や企業の活動が都市中心から地方へと循環し、創造的人材は豊かな自然環境の中で活動することに価値を見出すようになっています。さらに、他者と協働する「共創の場」を求める傾向が高まっています。

ウェルネスツーリズムの市場予測（2022 ～ 2027年）



2022 年の市場規模※は 650.7 十億ドル、27 年の市場規模は 1,399,6 十億ドルと推計。
集計対象：健康の維持・増進を目的とする旅行の支出合計：ウェルネスを主動機とする一次／ウェルネスを主動機としない二次（国内／海外旅行問わない）
※ Global Wellness Institute “Global Wellness Tourism Economy Monitor 2023” を基に作成

時代の流れが、夢舞台の理念と重なり合う
SDGs のその先へ ── Planetary Health

世界の価値観は、持続可能な開発目標（SDGs）を基盤としつつ、人がよりよく生きることをめざす『ウェルビーイング』、そして地球環境と人の健康を一体として捉える『Planetary Health 』へと広がりを見せています。こうした新しい潮流は、大阪・関西万博が掲げた「いのち輝く未来社会のデザイン」とも深く響きあうものです。
そして淡路夢舞台は、失われた自然の再生から始まったプロジェクトであり、人と自然が響きあう未来社会を “ この場所で実装する ” 舞台。国際的な価値観の転換を受け止め、環境創造×ウェルビーイング×国際交流を同時に実現する拠点として、今まさにその意義が高まっています。

①時代潮流

■関西圏の動き

■ 2025 年 4 月～ 10 月 大阪・関西万博開催　■ 2030 年頃 神戸空港国際化

国際交流の活性化

大阪湾ベイエリアは再構築フェーズへ

大阪･関西万博を契機に、神戸空港の国際化、そして大阪 IR の開業といった、画期的イベントが相乗し、大阪湾ベイエリアは大きな転換点を迎えています。万博で高まった地域価値の発信力に加え、空港・IR といった広域的な拠点機能の強化が進むことで、観光・ビジネスの交流が一層活性化。こうした環境を背景に、民間投資も広がり、多様なプレーヤーが参入することで、ベイエリアは再構築フェーズに移行しつつあります。

大阪・関西万博のレガシーの継承

大阪・関西万博テーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」を継承し、ウェルビーイングや多様性、共生社会といった理念や価値観を、地域の観光や文化などへ展開する動きが広がりつつあります。「ひょうごフィールドパビリオン」のさらなる展開、プレイスブランドの強化や、広域観光・インバウンド誘致の取組も進んでいます。

※ひょうごフィールドパビリオンとは、兵庫県が展開する、地域の暮らしそのものを学び・体験する SDGs の体験型地域プログラム

神戸空港国際化

2025 年春から国際チャーター便の運航が始まり、2030 年頃には国際定期便の就航が予定されています。都心近接の立地を生かし、ビジネス・観光両面での需要拡大が期待されています。

2030年 大阪 IR 開業予定

“ 都市型滞在＋自然回帰 ” の新需要

大阪ＩＲの開業とスマートリゾートシティ構想

2030年秋、夢洲において国際会議場、ホテル、エンターテインメント、ショッピングなどを備えた世界水準の統合型リゾートが開業予定です。この施設は、スマートリゾートシティの中核として位置づけられ、持続可能性と快適性を追求します。これにより、国内外からの来訪者の増加が期待され、関西圏のインバウンド需要は大きく拡大。富裕層や長期滞在客を呼び込み、宿泊・飲食・体験型観光など幅広い分野で新たな市場が形成されることが見込まれます。

AREA VALUE

②淡路島のエリアバリュー

淡路島は、日本神話において“国生みの島”として最初に誕生した特別な地であり、古来「御食国（みけつくに）」と呼ばれたように、豊かな自然と海の恵みを背景に食文化や祭礼、芸能など多彩な生活文化が育まれてきました。
近年では、「あわじ環境未来島構想」のもと、自然エネルギーの活用や持続可能な地域循環モデルの実践が進められており、生命（いのち）つながる“持続する環境の島”としても注目されています。
自然と歴史が息づく固有の風土は、“はじまりの島”として訪れる人の共感を呼び、淡路島ならではの体験価値を創出しています。

1｜地理的ポテンシャル

「関西と瀬戸内をつなぐ“結節点”」

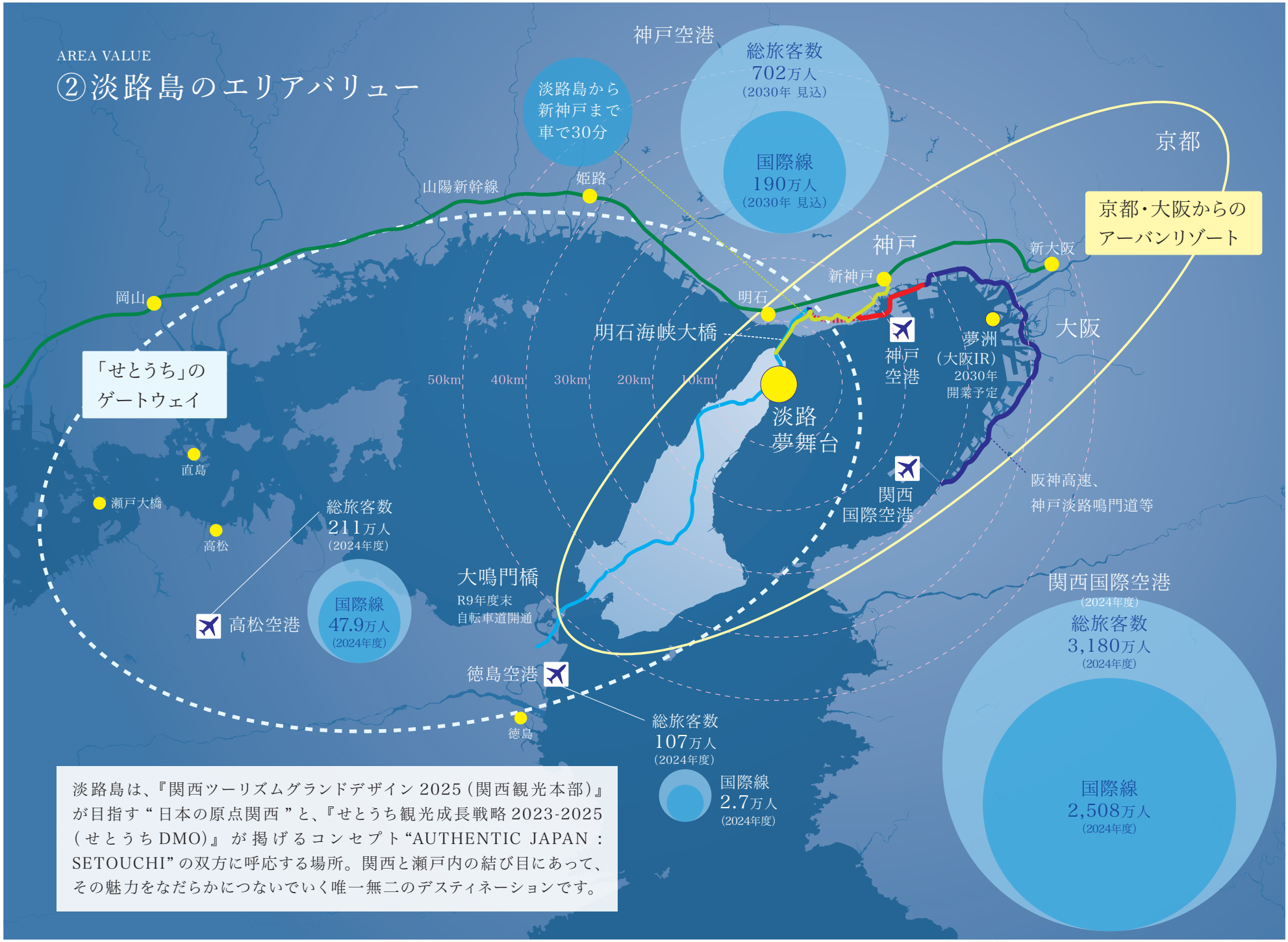
淡路島は、関西圏から最も近いリゾートとして機能しながら、瀬戸内エリアへの玄関口でもある“二つの広域圏をつなぐ拠点”。都市近接の利便性と、島ならではの自然環境の両方を兼ね備え、多様な移動手段で関西・瀬戸内を回遊する広域観光のハブとして、旅の起点にも滞在地にも選ばれるポジションにあります。

POINT

- ■大阪・神戸からの高いアクセス性
- ■本州と四国を結ぶ要所
- ■瀬戸内海国立公園の玄関口
- ■陸・海・空の交通網
- ■ひろがる国際空港へのアクセス

AREA VALUE

②淡路島のエリアバリュー



淡路島は、『関西ツーリズムグランドデザイン 2025（関西観光本部）』が目指す“日本の原点関西”と、『せとうち観光成長戦略 2023-2025（せとうち DMO）』が掲げるコンセプト“AUTHENTIC JAPAN : SETOUCHI”の双方に呼応する場所。関西と瀬戸内の結び目にあって、その魅力をなだらかにつないでいく唯一無二のデスティネーションです。

AREA VALUE

②淡路島のエリアバリュー

淡路夢舞台は、淡路島の北の玄関口に位置します。周辺には、明石海峡大橋を望む雄大な景観や四季の彩を感じられる花と緑の風景がひろがり、著名な建築家による建築群や、ウェルネス・ＳＤＧｓをテーマとする施設、歴史・文化施設など、多彩な施設が集積。近年は民間の参画が進み、地域資源を活かした魅力あるプロジェクトがひろく展開されています。

淡路島国営明石海峡公園

明石海峡大橋
江埼灯台
美湯松帆の郷
道の駅あわじ
淡路島タコステ
CRAFT CIRCUS
あわじ石の寝屋緑地
絵島
石屋神社
淡路サービスエリア
淡路ハイウェイオアシス
禅坊 靖寧
ニジゲンノモリ
県立淡路島公園
アクアイグニス淡路島
HELLO KITTY
SMILE / SHOWBOX
県立淡路景観園芸学校
淡路島国営明石海峡公園
のじまスコーラ
淡路夢舞台
アート山大石可久也美術館
AWAJI EARTH MUSEUM
北淡震災記念公園
野島断層保存館
あわじ花さじき
waSTEP AWAJISHIMA
本福寺水御堂
道の駅 東浦ターミナルパーク
吹き戻しの里
東浦サンパーク・天然温泉花の湯
北淡歴史民族資料館

本福寺 水御堂

あわじ花さじき

②淡路島のエリアバリュー

2｜歴史・文化資産

「日本の、はじまりの地」

古代の神話に彩られた地として語り継がれ、海・山・里山の暮らしと祭礼文化が受け継がれる淡路島は、日本文化の源流を感じられる希少な地域です。“御食国（みけつくに）”としての食文化や、島内に息づく工芸・芸能・生活文化は、本物の日本を体感できる文化資源として国内外から注目されています。

POINT

■神話・祭礼・年中行事などの歴史文化
■御食国としての食文化の深層
■生活文化・伝統産業・工芸が今も息づく地域性

3｜体験価値・コンテンツ

「自然が舞台装置となる“高付加価値の滞在体験”」

海・森・棚田・里山といった多彩な自然環境を背景に、ウェルネス、フード、アート、クラフト、アクティビティなど、淡路島ならではの体験が島全域に広がっています。ここでは、風土と人の営みから生まれる食の物語（テロワール）を味わうガストロノミーや、「ひょうごフィールドパビリオン」も展開。自然と調和した建築や文化施設は、島の風景を生かした“感性を揺さぶる舞台”として機能し、滞在体験に奥行きをもたらします。
“質の高い滞在”を求める国内外の旅行者にとって、淡路島はまさに「本物の日本と出会う場所」として注目を高めています。

POINT

■自然×ウェルネス
（スパ、森林浴、ヨガ、メディテーションなど）
■自然×アート・クラフト
（祭礼文化、手仕事、ギャラリー、現代アートなど）
■ローカルガストロノミーと農・漁に根ざした体験
■島ならではのプライベート性の高い宿泊体験
（一棟貸し、ヴィラ、ラグジュアリー・プライベートステイなど）
■自然と調和した文化・創造の場としての建築

②淡路島のエリアバリュー

4｜環境持続性

「食とエネルギーを生み出し、持続的に循環する島」

気候変動や生物多様性の喪失など、環境問題は社会や経済のあらゆる領域に影響を及ぼし、持続可能な社会の実現は、人類共通の責務となっています。
淡路島では、長年にわたり「あわじ環境未来島構想」のもと、再生可能エネルギーの導入や資源循環型のまちづくりなど、行政、住民、企業、NPO が一体となって先駆的な取組を積み重ねてきました。

POINT

■エネルギーの持続（エネルギー自給率 100％超）
■農と食の持続（食料自給率 100％超）
■世界的に誇る食の島

5｜建築が生む地域価値

「現代建築とアートの舞台」

淡路島には、淡路夢舞台を手がけた安藤忠雄氏をはじめ、丹下健三氏、坂茂氏など、世界的に著名な建築家による建築群が点在しています。これらの作品は、単なる観光施設ではなく、「建築そのものを目的に訪れる島＝建築の聖地」としてのブランド価値を生み出し、国内外の来訪者を惹きつける大きな力となっています。
一方で、瀬戸内エリアでは瀬戸内国際芸術祭に象徴されるように、世界的な評価を得るアートコンテンツが育まれてきました。淡路島は、その瀬戸内文化圏と地理的にも文化的にも連続する位置にあり、建築とアートを軸とした広域的な回遊性を高めるポテンシャルを備えています。
淡路夢舞台は、こうした世界水準の建築群と瀬戸内の芸術文化をつなぐハブとして機能しうる存在です。建築をきっかけに人が集い、アートや自然、食、地域の暮らしへと関心が広がっていく。その循環は、淡路島全体の地域価値を押し上げる源泉となります。

POINT

■現代建築・アートの集積
■瀬戸内エリアでの広域周遊
■自然と調和した文化・創造の場としての建築

CONNECTING TO THE FUTURE

③淡路夢舞台に込められた思いと、現代につなぐ価値

淡路夢舞台は、淡路島国際公園都市構想の中核として、「人と自然」「人と人」「人と社会」が響き合い、未来へ向けて“分かち合い、ともに生きる”ための新たなコミュニケーションの場として誕生しました。建築設計を手掛けた安藤忠雄氏の哲学を体現し、建築と自然が調和する空間のなかにコミュニケーションの理念が映し出されています。
その理念は、今日語られる ウェルビーイングや共創、そしてSDGs+Beyondの価値観へとつながっていきます。

誕生の原点――失われた自然の再生から始まったプロジェクト

淡路夢舞台は、関西国際空港建設などに伴う土砂採取で失われた山肌に、もう一度「郷土の森」をよみがえらせることから始まったプロジェクトです。壊れてしまった自然を、そのまま放置するのではなく、人の意志と創造力によって、積極的に再生へと導くこと。壮大なランドスケープに、安藤忠雄氏が設計した庭園や建築が折り重なることで、自然環境の潜在力を引き出し、人と自然が共鳴する場をつくり出しました。これは、環境と共生する未来に向けた先駆的な挑戦であり、「再生する建築」の象徴でもあります。

この価値は、近年注目される
■ Planetary Health（地球と人の健康）
■リジェネラティブデザイン（再生を生むデザイン）
などの思想とも共鳴するものです。

CONNECTING TO THE FUTURE

③淡路夢舞台に込められた思いと、現代につなぐ価値

「体感と感動」——
原点へ立ち返る場としての夢舞台

淡路夢舞台には、光･風･水が織りなすリズムが流れています。植栽のテラス「百段苑」を象徴とする“地形の再生”は、歩き、旅し、ふりかえるという体験を通じて、自然の躍動と人の感性を呼び覚まします。日々の暮らしでは見過ごしてしまう自然のささやきに気づき、心身の感覚がほどけていく。ここは、一人ひとりが自らの内側にある原点へと立ち返り、新たな感動を発見するための「舞台」として生まれました。

そこで得られるのは

“ここでしか体験できない感動”と
“日々の暮らしの立ち返る時間”。

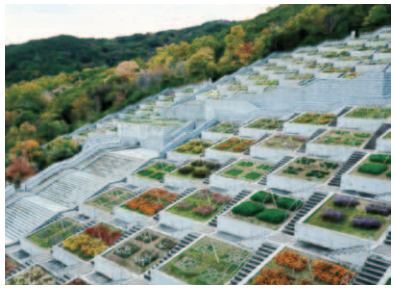
この没入的な体験は、淡路島がもつ豊かな自然･文化と相まって、国内外の旅行者に深い印象を残し、島全体の価値を高める基盤となっています。

「分かち合い、ともに生きる」——
淡路島国際公園都市の理念

淡路夢舞台の根底には、「コミュニケーション都市」という構想が息づいています。ここでいうコミュニケーションとは、単なる言葉のやりとりや情報交換ではなく、人と自然、人と人、人と社会が“分かち合い、ともに生きる”という共生の理念。持続可能な未来をつくる原動力として、多様な価値観が交わり、相互に支えあう関係性を育む。この場は、そんな時代への意思を示す先端的な実践のフィールドでもあります。

この理念は、大阪・関西万博が掲げる「いのち輝く未来社会のデザイン」そして「多様でありながらひとつ」という万博宣言にも通じています。

淡路夢舞台は、万博が提示する未来像を地域に根づかせ、継承していくレガシー拠点として、これからますます重要な役割を担っていきます。



Part 2

PROJECT OUTLINE

淡路夢舞台の未来ビジョン

時代の潮流を捉え、淡路島が育んできた価値を礎に――

私たちは、「淡路夢舞台の創造的再生」を、未来に向けた新たな物語を生み出す“官民共創プロジェクト”として進めます。

ここでいう「創造的再生（リジェネラティブ）」とは、「持続可能性（サステイナブル）」をさらに前に進める言葉のこと。兵庫県が掲げる『兵庫県域の大阪湾ベイエリア活性化基本方針』『ひょうご新観光戦略』『淡路島総合観光戦略』などを踏まえて、「現状を維持していくための改善」ではなく、「課題を根本的に見直し、従来のスキームにとらわれずにより良い形を生み出し、将来へとつなぐ」ことを意味しています。

PROJECT OUTLINE

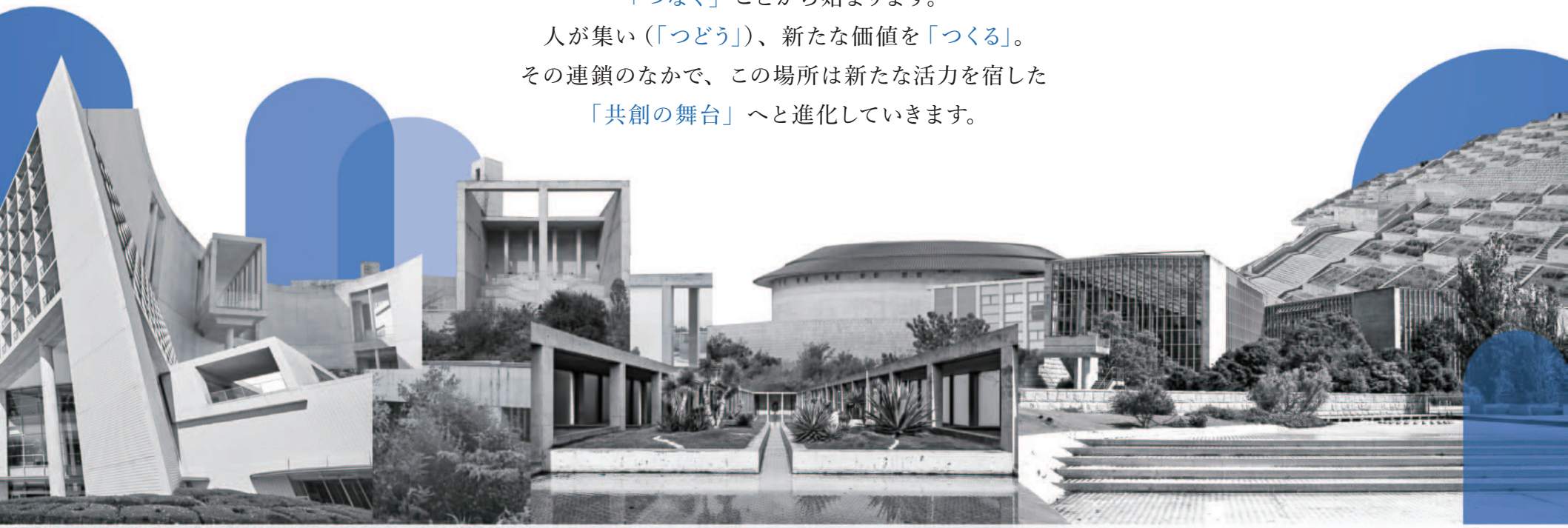
淡路夢舞台の未来ビジョン

人と自然が響きあう、新たな交流と創造の舞台へ

［再生の３つのコンセプト］

つなぐ・つどう・つくる

淡路夢舞台の再生は、過去と未来、人と自然、地域と世界を
「つなぐ」ことから始まります。
人が集い（「つどう」）、新たな価値を「つくる」。
その連鎖のなかで、この場所は新たな活力を宿した
「共創の舞台」へと進化していきます。



❶つなぐ

「過去と未来、人と自然、世界と地域が繋がる舞台」

■過去と未来をつなぐ

淡路島に息づく歴史や伝統文化、ものづくりや芸術といった暮らしの営みを、今の価値観のなかで再解釈し、未来へと受け渡していきます。
また、阪神･淡路大震災からの復興の記憶を確かな学びとして次世代へ受け継ぐことで、この地がたどってきた軌跡を未来へとつなぎます。

■人と自然をつなぐ

ここに流れる光や風、海や森の気配を感じ取ることで、一人ひとりが“ほんとうの自分”に再び出会うことができます。
自然との響き合いは、心身の再生の体験を生み出します。

■世界と地域をつなぐ

淡路ならではの地域資源を面的につなぎ、島全体の回遊を促します。
関西・瀬戸内と世界を結ぶクロスポイントとして、国内外の交流を生み出すゲートウェイとなります。

つながりが、新しい価値を生み出します。
淡路夢舞台は、その起点となります。

❷つどう

「出会いが生む創造の力」

淡路夢舞台が宿す「人と自然の共生」や「震災からの創造的復興」という深い物語が、島の持つ「土地の記憶」とも連なって、本物の体験価値を求める人々を惹き付けます。
ここでの体験から生まれる「感動」や「共感」は、人々の価値観や生き方に新しい視点をもたらします。さらに、ここで出会う多様な人々の対話は、地域と世界を結ぶネットワークを広げ、新しい文化や産業、アイデアを生み出す力となります。

淡路夢舞台のオープンを飾った「ジャパンフローラ 2000（淡路花博）」には、79 の国と地域、国内 259 団体が参加し、約 700 万人が来場しました。「自然と人のつながりを再構築し、21 世紀の環境文化を創造する」――そこで芽吹いた新たな価値観は、今日まで引き継がれています。

❸つくる

「未来への実践が、ここから始まる」

人と自然、世界と地域が響き合いながら、持続可能な未来をともに“つくり出す舞台”―― それが淡路夢舞台です。この取り組みは、淡路全島で進められてきた「あわじ環境未来島構想」とも深く響き合い、兵庫県が掲げるウェルビーイングを軸とした滞在型プログラム、サステナブルツーリズムの実践とも呼応します。
淡路夢舞台は、SDGs のその先を見据え、“人と自然の新たな調和を体現する地域モデル”を創造し、世界に発信する拠点として、ここから新たな一歩を踏み出していきます。

Part 3

TERRITORY VALUE & PARTNERSHIP FRAMEWORK
共創の枠組み

①淡路夢舞台の価値［ポテンシャルと可能性］

再生の起点となる6つの強み

大阪湾ベイエリアには、新しい人の流れが生まれつつあります。さらに、旅行者の価値観は「消費」から「意味ある滞在」へと移行し、その土地固有の自然・文化・体験を求める傾向が強まっています。この大きな潮流の中で、淡路夢舞台は“関西・瀬戸内の未来価値を担う拠点”となり得る、多面的なポテンシャルを備えています。

1 ここにしかない“海と緑”の特別なロケーション

海と緑に抱かれた淡路島北部に位置し、瀬戸内海の絶景を望む唯一無二の立地。大阪・神戸から1時間圏内、関西国際空港から高速道路で直結する良好なアクセスと、島ならではの非日常性が共存する希少な環境です。訪れる人に「便利さ」と「深い没入感」を同時に提供できます。

2 20年以上積み重ねたブランド力と国際的認知

淡路夢舞台は、「自然との共生」「震災からの創造的復興」という社会的メッセージを内包するプロジェクトとして高い評価を得てきました。安藤忠雄氏による建築群が持つ文化的・芸術的価値は世界的にも認知され、MICE・観光・教育など多領域で活用されてきた実績は、今後の民間による再生においても強力な発信力となります。

3 陸・海・空が交差する、広域連携のハブとなるポジション

明石海峡大橋・大鳴門橋を介した陸路アクセス、交流の翼港を活用した海上アクセスにより、関西圏・四国圏・瀬戸内圏との広域連携が可能です。さらに、「大阪IR」「神戸空港国際化」「新モビリティ（空飛ぶクルマ等）」など将来プロジェクトとの連携により、淡路夢舞台は“ベイエリア広域観光のクロス・ポイント”としての役割が期待されます。

4 価値観の変化が追い風となるウェルビーイング×体験市場への順応性

世界的に高まるウェルビーイング・サステナブルツーリズムの潮流。淡路夢舞台は、自然と文化、食、アート、建築といった要素が“体験型コンテンツ”として有機的に結びつく環境にあります。兵庫県が掲げる「サステナブル・ツーリズム」「六甲有馬 × 淡路ウェルネスツーリズム」との親和性も高く、国際的なウェルネスエリアとしての成長が見込まれます。

5 多機能エリアを束ねる“複合運営”という強み

○ホテル・展望テラス・国際会議場 → 民間譲渡予定
○温室・緑地・港湾施設 → 指定管理での運営予定
これらが一体となった複合エリアのため、民間事業者は 統合的な再生戦略を描くことができます。宿泊・MICE・ウェルネス・アート・教育など、領域横断の事業を展開できる柔軟性は大きな魅力です。

6 既存資産を“読み替える”ことで生まれる、新しい価値創造

淡路夢舞台の建築群は構造的ポテンシャルが高く、用途転換（例:会議場→創造的オフィスなど）にも対応可能です。法的・行政的検討は要しますが、県としては 地域振興・文化・環境への貢献を伴う再活用提案を歓迎しており、既存資産を再解釈することで、新たな文化的・経済的価値を創出する余地が広く残されています。

②今後の施設運営方針

民間の創意と活力を積極的に導入し、
官民連携による持続可能な施設の運営を進めるために。

周辺環境の変化や施設の市場性、公共性などを踏まえ、ホテル、国際会議場等の施設については民間への資産譲渡を進めます。緑地や港湾などは公の施設として維持し、民間への委託（指定管理）による官民連携を図ります。なお、官民が参画する運営協議会などによって、淡路夢舞台全体の一体性や公共性の維持・確保に努めます。また、いずれの施設においても、「従業員の雇用の確保を基本」に取組を進めます。

施設名	今後の運営方針
ホテル・展望テラス	土地と建物を一体で民間に譲渡する
国際会議場	「公の施設」としての位置づけに区切りをつけ、土地と建物を一体で民間に譲渡する
百段苑・温室・野外劇場 灘山緑地 淡路交流の翼港	県保有の「公の施設」としての位置づけを維持し、管理運営を民間事業者に委託（指定管理）する 民間事業者の創意工夫が発揮できるような公募とする

淡路夢舞台

③譲渡対象となる主要施設

ホテル・展望テラス

[立地]

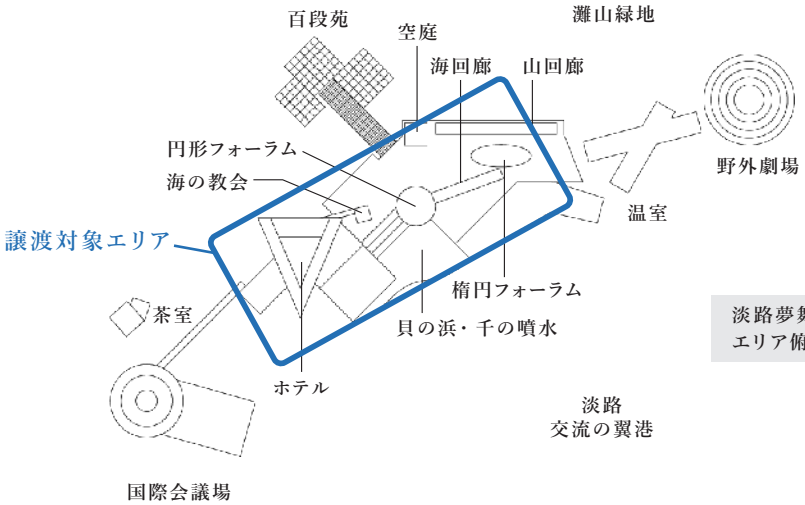
淡路夢舞台の中心的宿泊施設であり、明石海峡大橋を一望する高台に立地。淡路島の海と緑を背景に、コンベンション・リゾート・観光の拠点として機能している。

[魅力]

- 客室から淡路島国営明石海峡公園の大パノラマと、海の景色を望む開放的な眺望。
- 淡路産食材を活かしたガストロノミー、ウェルネス滞在など多様な利用価値。
- 隣接する国際会議場と連動することで、滞在型会議・イベントなどの一体運営が可能。

[再生の余地]

- 屋上・展望テラスの活用や、地域食材・歴史・文化体験などとの連携強化によって、“淡路らしさ”をより体感できる接続可能なプレミアムホテルへの進化が期待される。
- 海が見えて眺めが良い展望テラス、レストラン＆ショップのエリアを使って、ウェルネス施設を検討しても。



淡路夢舞台
エリア俯瞰図

譲渡対象としてのポイント

- 今回の譲渡対象には、ホテル、展望テラス、地下駐車場および関連敷地が含まれる。
- 単なる宿泊機能の継続ではなく、「淡路夢舞台全体のゲートウェイ」としての再生・再ブランディングが求められる。

③譲渡対象となる主要施設

国際会議場

［立地］

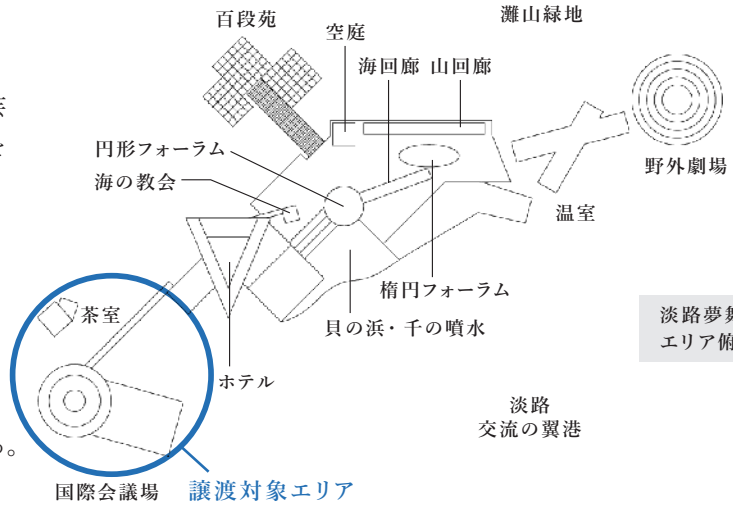
豊かな自然環境を背景とする利便性の高いリゾート型コンベンション施設として隣接ホテルと直結している。

［魅力］

■国際会議・シンポジウム・企業研修など、多目的に利用可能な高機能ホール群。
■自然を感じる建築空間が、他の都市型コンベンション施設にはない“癒しと創造性”を生み出す。
■ホテルや百段苑との動線連携により、リトリート型 MICE のモデル空間となりうる。

［再生の余地］

■ ICT 環境、ハイブリッド会議設備などの最新化。
■環境建築としての意匠を維持しつつ、ビジネスと文化の交差点として再定義する余地がある。MICE ＋ウェルビーイング＋アートの融合プログラムなど、次世代型活用への転換が鍵。
■商業施設化して、富裕層向けのホテルと商業施設が隣接した成功例を目指しても。伝統工芸などの文化体験や、淡路（瀬戸内）の厳選セレクトショップ、レストランを展開して娯楽施設をエリアに増やすなど。



淡路夢舞台
エリア俯瞰図

譲渡対象としてのポイント

■建物本体および関連機能が譲渡対象に含まれる。
■公の施設としての役割に区切りをつけ、民間事業者へ譲渡。
■民間の創造力によって、夢舞台全体の「知の発信･交流拠点」として再稼働することが期待される。

④委託対象となる主要施設

百段苑・温室・野外劇場・灘山緑地

[立地]

夢舞台の中核をなす屋外エリア群。階段状に連なる植栽テラス「百段苑」を中心に、温室（植物館）、野外劇場、灘山の緑地帯が連続的に構成されている。

[魅力]

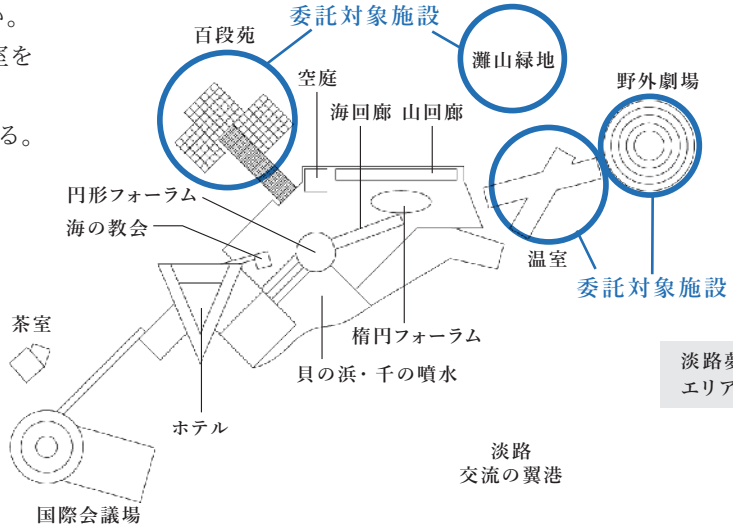
■安藤忠雄氏の設計思想「人と自然の共生」を象徴するランドスケープ。
■四季を通じて花や植物が楽しめ、教育・環境学習・撮影など多様な利用が可能。
■温室・野外劇場ではアートイベントやパフォーマンス開催にも適する。

[再生の余地]

■維持管理コストの高騰や来園者の減少に伴い、民間による再プログラム化の余地が大きい。
■百段苑を生かした「自然×アート・クラフト」「自然×ウェルネス」の体験価値創出、温室を活用したカフェ・展示・イベントスペース転用なども可能。
■環境教育と観光・アートが共存する“生きたフィールドミュージアム”への進化が期待される。

委託対象としてのポイント

■県保有地として管理されてきた緑地・構造物群を含む広範なエリアが対象。
■民間事業者の創意工夫が発揮できるような公募を実施。
■自然と建築が一体となった象徴的空間として、夢舞台全体の理念を継承する再生が求められる。



淡路夢舞台
エリア俯瞰図

④委託対象となる主要施設

淡路交流の翼港

[立地]

淡路夢舞台の北東部に位置する海上交通拠点。神戸空港や関西空港からの海上アクセス、観光船などの導線に接続する位置にある。

[魅力]

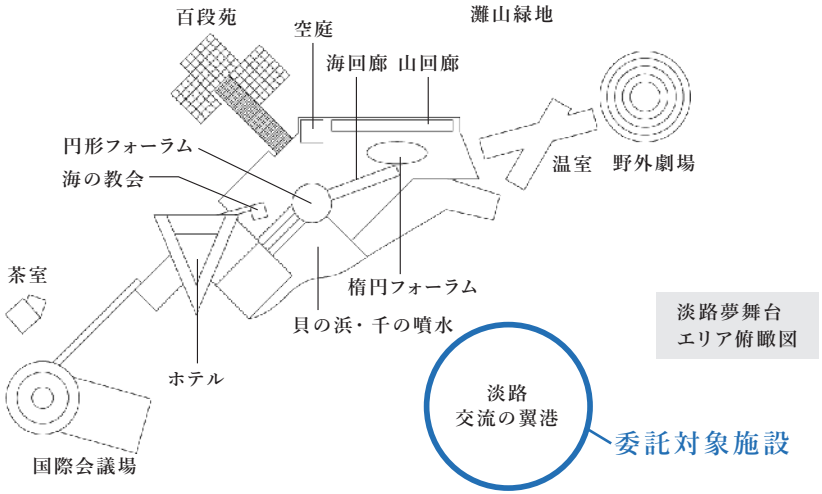
■海上アクセス拠点として、ベイエリア全体の回遊性を高めるポテンシャル。
■マリーナ・クルーズなど、空と海の交通を結ぶ「立体的交通拠点」として再評価されつつある。
■海と建築、自然と都市をつなぐ“ 玄関口 ”としての象徴性が高い。

[再生の余地]

■既存施設の老朽化や利用頻度の低下が課題。
■海上観光・MICE 来訪者向けの新交通導入（電動船等）により再生可能。
■「空・海・陸」を統合する淡路島の海の玄関口としての機能再構築が期待される。

委託対象としてのポイント

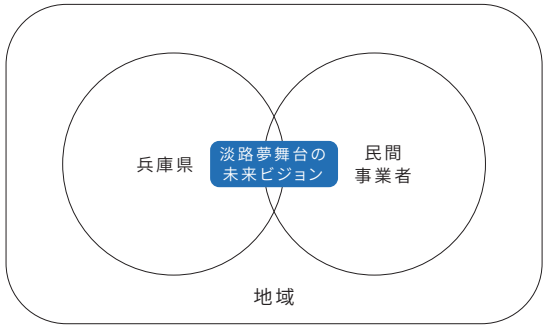
■港湾管理施設が委託対象に含まれる。
■民間事業者の創意工夫が発揮できるような公募を実施。
■民間による運営・整備を通じ、国際的な来訪者対応力と広域連携の強化が狙い。



PARTNERSHIP FRAMEWORK

⑤県と事業者の役割分担

共に走り、共に育てる。
官民の役割分担と連携で進める新たな共創プロジェクトです。



項目	兵庫県の役割	民間事業者の役割
理念・公共性・一体性の維持	○淡路夢舞台再生の基本方針策定・公表・周知 ○淡路夢舞台の一体運営に向けた運営協議会（仮称）への参画	○淡路夢舞台の理念、県の提示する「再生方針」を踏まえた事業計画・投資計画等の作成、事業の持続的展開 ○運営協議会（仮称）への参画
制度設計・手続き	○資産譲渡・委託（指定管理）スキームの整理と実施方針の公表 ○公募・審査・契約手続きの実施	○法令・契約条件に基づく運営・維持管理 ○民間の創意による空間再生
地域との連携・情報発信	○地域活性化・観光振興等の方針作成、施策展開 ○多様なステークホルダーの連携支援 ○エリアプロモーションの展開	○エリア戦略を踏まえたブランド開発 ○体験型コンテンツ等、地域資源との連携 ○公的施策、プロモーション等との連携
環境保全・リスク管理	○環境保持及危機管理対応等に関する法令・ガイドライン等の提示及び関連施策の実施 ○緑地・港湾等の公共エリアでの行政的監督	○法令・ガイドライン等の遵守 ○環境負荷低減・安全運営への自主的取組

⑥今後のスケジュール

令和７年度（2025年度）	令和８年度（2026年度）	令和９年度（2027年度）～
公募 ・事業スキームの決定 ・民間事業者の公募開始	**契約・譲渡** ・企画提案審査・選定 ・譲渡契約締結 ・引継ぎ・改修計画の調整	**再生フェーズ開始** ・新運営体制による再生事業スタート

※上記スケジュールは現時点の想定であり、調整の可能性があります。

IDEAL STATE

おわりに

新たな施設の運営者に求めること ――

淡路夢舞台は、「コミュニケーション都市」を目指した淡路国際公園都市の中核施設として、2000 年という節目の年に誕生し、人と自然の調和をテーマにした「国際園芸・造園博ジャパンフローラ 2000」がその幕開けを飾りました。

ここでいう“コミュニケーション”とは、人と自然、人と人、人と社会のあらゆる関係において、分かち合い、ともに生きる“共生”の理念を示すものです。

この理念は、2025 年に開催された大阪・関西万博が掲げたテーマ ――持続可能な社会の実現に向け、世界中の知恵を集めて地球規模の課題に挑むという姿勢―― とも深く響き合っています。

これからの淡路夢舞台は、万博のレガシーとも連動しながら、こうした普遍的価値を体現する場として次世代へ継承されていくことが求められます。

また、淡路夢舞台は、阪神・淡路大震災を経て掲げられた「創造的復興」の象徴でもあります。震災から30年を迎える今、失われた命への追悼、復興に込められた思い、そしてその経験から得た教訓を、未来に向けて引き続き伝えていくことは、この地が担う大切な役割です。

私どもが新たな運営者に期待するのは、こうした夢舞台の理念と、県が掲げる未来ビジョンに深く共感し、この地の潜在力をともに引き出していただける**“共創のパートナー”となる**ことです。

淡路島が持つ比類なき自然・歴史・文化を持続可能な価値として磨き上げ、**地域社会とともに発展させていく**こと。淡路夢舞台を、**世代を超えて誇れる場として育てていく**こと。

こうした取組に、確かな理念と長期的な視点をもって参画し、民間ならではの創造力を発揮いただけることを強く期待しています。

CONTACT

相談・問合せ窓口

〒650-8567
兵庫県神戸市中央区下山手通 5-10-1

兵庫県企業庁総務課
Tel：078-362-4327
E-mail：kigyosoumu@pref.hyogo.lg.jp

兵庫県産業労働部国際局国際課
Tel：078-362-3025
E-mail：kokusaika@pref.hyogo.lg.jp

兵庫県まちづくり部公園緑地課
Tel：078-362-9308
E-mail：kouenryokuchika@pref.hyogo.lg.jp

兵庫県土木部港湾課
Tel：078-362-9274
E-mail：kouwanka@pref.hyogo.lg.jp